

# 令和7年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会 ・ 柏税務署

千葉県税理士会柏支部 支部長賞

## 未来の税のあり方

柏市立柏第五中学校 第3学年 菅谷 寛大

私たちの生活に欠かせない「税」。これまでに税の役割や身近な使われ方について知る機会がありました。少し先の未来を想像しながら、これからどのように変わっていくべきかを考えてみたいと思います。

現代の税の仕組みは、基本的に「働いて得た収入」や「買入物の金額」に応じて税を集めています。しかし、これからの社会はますます変化し、今の仕組みだけでは不十分になるかもしれません。例えば、少子高齢化が進むと、働く人の数が減り、税収も少なくなります。一方で、高齢者を支えるための医療や福祉には、ますますお金が必要になります。このままでは、若い世代の負担がどんどん重くなってしまうのではないかと心配です。

そこで私は未来の税は「みんながより公平に負担できる仕組み」に変わらなければならないと思います。例えば、AIやロボットが仕事をするようになれば、人間の働きからだけでなく、ロボットが生み出した利益からも税を集める仕組みが考えられます。そうすれば人と機械が協力して社会を支えることができます。また、環境問題に取り組むための新しい税の形も必要だと思います。地球温暖化やごみの増加は、私たちの将来に深刻な影響を与え

ます。そこで環境に悪い影響を与える活動には高い税をかけ、逆に環境にやさしい取り組みをした人や企業には税を軽くする仕組みをつくれれば、みんなが自然に環境を守る方向へ進むのではないのでしょうか。

さらに、未来の税は「使い道の透明性」がもっと重要視されるべきです。今でも税の使い道は発表されていますが、難しい言葉や数字ばかりで、子供や若者には分かりにくいことが多いです。もし、誰でも簡単に理解できるようなアプリや動画で使い道を知ることができれば、納める側も「自分のお金がこう役立つているんだ」と実感しやすくなります。そして、それが税への信頼につながると思います。

私は未来の税は「社会の問題を解決するための道具」になってほしいと考えています。ただお金を集めるだけでなく、環境を守ったり、平等な社会を実現したりするために積極的に活用されるべきです。そうすれば、税は「負担」ではなく「未来への投資」として受け止められるでしょう。

今はまだ中学生の私ですが、すでに税の恩恵を受けながら生活しています。将来、大人になって税を納める立場になったときに、ただ言われるままではなく、「より良い社会を作るためにどうあるべきか」を考え続けたいと思います。未来の税のあり方を考えることは、自分の未来や世界の未来を考えることにつながるのです。

